序章　飢餓の荒野へ　丸井英二……7
本書の構成と意図／歴史と経済の交差点／現代の飢餓と社会／日本の依存体質が何をもたらすか

第Ⅰ部　歴史的事実から学ぶ

第1章　日本の飢餓——中世・近世から近代へ　原田信男……20
はじめに——日本社会の特質　20
Ⅰ　中世の飢餓　22
中世社会の食料事情と支配システム／中世社会の自然災害／中世の飢餓とその特質
Ⅱ　近世の飢餓　30
近世の食料生産と支配システム／近世における飢饉とその要因／近世における飢饉への対応
おわりに——近代における飢餓の変質　36

第2章　中国における飢饉——一九五九～六一年の飢饉を中心に　西澤治彦……42
Ⅰ　序論　42
はじめに／飢饉研究の動向／中国史における飢饉
Ⅱ　一九五九～六一年の飢饉について　45
飢饉の概要／飢饉発生の諸要因／飢饉に対する対応／江蘇省の事例から
Ⅲ　一九五九～六一年の飢饉の特徴と教訓　67

第3章　ヨーロッパにおける飢餓——「飢餓の四〇年代」をめぐって　服部正治……72
Ⅰ　「飢餓の四〇年代」　72
Ⅱ　食生活の改善と農業不況　76
Ⅲ　アイルランドのジャガイモ飢饉　85
Ⅳ　「飢餓の四〇年代」とアイルランド大飢饉　92

第4章　牧畜民の飢餓観——中東を中心として　堀内勝……98
はじめに　98
Ⅰ　牧民世界の飢餓の原因　99
人為的原因／自然的原因

II　飢餓・飢饉への牧民の対処　114
神だのみ／救援／移動、移住、ディアスポラ

長編コラム　飢餓の記憶　熊倉功夫……122
一枚の写真　122
学童集団疎開　124
極限状況のなかで　129

第II部　現代の飢餓と飽食

第1章　飢餓と食料援助　岩崎美佐子……136
はじめに　137
I　飢餓を生み出す構造　139
旱魃／経済優先政策／国家支配／国際社会の介入
II　食料援助のもたらすもの　151
社会構造の変化／意識の変化／食の変化
おわりに　153

第2章　栄養学的にみた飢餓と飽食　山本茂……156
はじめに　156
I　飢餓　156
地球上の飢餓人口／高すぎる発展途上国の人口増加率／飢餓の症状／クワシオコールの意味／ガーナ大学野口記念医学研究所／ガーナのタンパク質・エネルギー欠乏症（PEM）と麻疹
II　わが国の飢餓と飽食　168
日本人の疾病構造の変化／日本人の飽食そして肥満／飽食そして肥満がもたらした循環器疾患／飽食そして肥満がもたらした糖尿病／飽食によって高騰する医療費／食生活の変遷／栄養摂取量の変遷／日本の食料自給率／日本の食料需給
おわりに　187

第3章　日本の飽食と食料の海外依存　荏開津典生……189
はじめに　189
I　食生活の成熟　190
II　食料の自給率と食料安全保障　195
III　食料輸入と飢餓　198
むすび　200

第4章　飢餓と民主主義の倫理　笹澤豊……203
はじめに　203
I　飢餓に対する態度　204
II　リバタリアニズムへの反論　210
III　民主主義の倫理は国境を越えられるか　212

総括　飢餓を考える
——健康な食文化の鏡としての飢餓　丸井英二……221
I　飢餓の諸相　221
空腹と食欲／飢餓と飢餓感
II　現象としての飢餓　225
個人の飢餓、家族の飢餓／極限状況の象徴としての飢餓／地域の飢餓、集団の飢餓
III　飢餓の予防への道　235
IV　飽食からバーチャル飢餓の時代へ　238

飢餓を考える文献……241
あとがき　250
執筆者紹介　257

装幀　市川美野里